

○議長（中西峰雄君）引き続き順番18、15番  
石橋君。

〔15番（石橋英和君）登壇〕

○15番（石橋英和君）よろしくお願ひいたします。今年的一般質問も私の後、1人の先生を残すばかりとなりました。連日答弁に立たれた皆さん方のお疲れもいよいよピークに達しているところでありましょうが、どうかよろしくお願ひいたします。次の先生のために、気力と体力を残しておかなければなどとおっしゃらずに、私のこともよろしくお願ひいたします。

さて、今回はごみ処理行政について質問させていただきたいと思いますが、まさに今年のごみ行政は激動の1年であったと思います。ごみ袋の大幅な値上げに際しては、私も多くの市民から何度も怒りの声をぶつけられたものであります。分別が面倒だ、積み残しごみ袋を何とかしてくれという声も何度聞かされたことでありましょうか。

当局より議会に上程されてくるすべての議案について、何人もが反対した議案であっても、採決の結果、承認され、議会を通過したその瞬間から議会はその案件について当局と連帯責任を負う立場になります。私たち議員には、どうしてそうしなければならなかったのかということについて説明責任が発生いたします。決してその説明を骨惜しみしているわけではないのですが、このたびのごみ袋の値上げと分別の徹底については、あまりにも市民の理解が少なく不満が大きく、ほっておけない気になりましたので、質問に立たせていただきました。

このたびの袋の値上げと分別の細分化につ

いて、市民は間違いなく無理難題だと受けとめております。人は無理難題に向かい合うとき、その真意を十分理解した上で対応するのと、何もわからぬままに無理やり強制されるのでは、感じ取る苦痛の度合いに猛烈な差があるものでございます。市民の烈火のごとき怒りは衰えぬままに、間もなく年を越そうとしておりますが、せめてこの件が理解のできる無理難題だと思ってもらえるところまで緊急に対策せねばなりません。

当局とて、それなりの反発は予測した上の施策であったはずなのに、どうしてもっと万全の説明体制で臨まなかったのか、これが文句その一であります。

次に、本市の今の分別方式はお隣のかつらぎ町が既に実施している方式であります。かつらぎ町ができているのだから、うちもできるはずだという安易な判断がなかったか。かつらぎ町にはできたけれど、うちができるという保証はないという謙虚さを感じ取れなかったこと、これが文句その二であります。

都市圏では、この分別はやっておりません。やってないのではなく、どうしてもやれなかったのです。かつらぎ町と都市圏との違いを分析して、本市はどちらに近いのかを考えなければなりません。今、地方行政はエコロジーであり、同時にエコノミーでなければなりません。ごみ処理行政は、まさにその二つのエコとまともに向き合わなければならない所在地1丁目1番地の行政課題であります。市民と多くの痛みを共有しながら進めていく共同作業であります。市の説明が十分でないために、苦しんでいる市民がいるなどということでは、絶対にだめなのであります。市民に

向けての説明という作業がどれだけ重大な要素であるか。その施策を生かすも殺すも説明次第であると私は考えています。本市行政総ぐるみで説明という作業を根本的に見直してみてはいかがでしょうかと提案いたします。

さて、今年のごみ処理行政で最も重大なものに、新しいごみ焼却場の完成があります。去年の今頃は、その完成が遅れるため旧施設の操業を4カ月延長しなければならないという事態に、私は木下市長に対して随分と苦言を申し上げたことを、ついきのうのこのように思い出しますが、その後予定どおり施設は完成し、広域なるがゆえの他町村との苦渋の政治課題も克服されまして、今はりっぱな新しいごみ焼却場が稼動しております。

木下市長におかれましては、この苦難の事業を無事成し遂げられまして、それによりましてやっと旧施設の焼却炉の火が消されました。その業績に対し、敬意を表しますとともに、新しいごみ焼却場の完成にあたりまして、心よりお祝いを申し上げたいと思います。

質問1、ごみ袋の値上げと新方式の分別について、市民に対して行ってきた説明が十分行き届いたとの認識でありますか。

質問2、持って行ってもらえず集積所に残されてしまったごみ袋の処理に各自治体は苦慮しており、厳しすぎてついていけないとの批判もあるが、積み残しごみ袋の現状と今後の対策はどうか。

質問3、市民に対し説明会を開催するにあたり、より効率良く本来の趣旨を伝え、住民の理解を得るための説明手腕のようなものを研究しているか。時間を費やしたばかりでよくわからなかったとの住民の声もあります。

これで、壇上の質問を終わらせていただきます。答弁よろしく願いいたします。

○議長（中西峰雄君）15番 石橋君の一般質問に対する答弁を求めます。

市民部長。

〔市民部長（岸田茂利君）登壇〕

○市民部長（岸田茂利君）石橋議員の可燃ごみ指定袋の販売価格改正と広域ごみ処理移行に伴う分別説明会についてのおただしにお答えをいたします。

まず、広域ごみ処理場移行に伴う分別説明会開催におきまして、限られた人員体制の中で当初は学校区単位での開催を考えておりましたが、生活に密着した問題であるため、区長や各自治会長と協議の上、できるだけきめ細かい説明会の開催とし、地区によっては班単位でも実施させていただいたところであります。

説明につきましては、場所により内容が違わないよう、説明マニュアルを作成するとともに、環境事業室、環境美化センター職員間で勉強会を行い臨んだところではありますが、地域によっては出席率の低いところもありました。

説明会の回数は、役員会での説明を含め350回を超えておりまして、現在も再説明会の依頼や取り残しの多い地域に対して区長と協議の上、説明に出向いているところです。

また、可燃ごみ指定袋の販売価格改正の説明につきましては、平成21年3月議会にお諮りした関係上、平成21年3月末以降の説明会におきましては、分別の説明とともに行ってきましたが、説明会は昨年8月ごろから始めておりますので、時間の関係もあり十分できていない地域もあるのも事実であります。

このため、広報誌や市ホームページを活用してお知らせしたところですが、ご理解いただいていない点を反省し、今後の説明会については、議員からご指摘いただいた点も視野に入れ、検討してまいりたいと考えております。

なお、今後のごみ減量・資源化の成果を定

期的にお知らせするとともに、現在も連載中ですが、その他プラ製容器包装など、分別の説明をわかりやすく掲載してまいりたいと考えております。

次に、分別が適正でないごみ袋の取り残しについてですが、特に新たに分別区分に加わった、その他プラ製容器包装指定袋について、取り残しが発生しております。

この、その他プラ製容器包装は、ごみではなく、資源として回収し、広域ごみ処理場ですべて手選別により、間違っって混入したものを取り除き、再生化工場でリサイクルされることとなりますが、取り残しを行っている袋は、手選別作業において大きな障害となる生ごみの混入、あるいは汁など、汚れのついていないもの、また明らかにプラマークのついていない異物が混入しているもの、また二重袋で出されたものでありますが、回覧板や広報誌での啓発と説明会などにより、当初に比べ分別はよくなってきております。

また、取り残した袋で、だれも引取手がない袋につきましては、9番議員にもお答えしたとおり、3日ないし4日の間に回収を行っていますが、分別をし直す場所や経費の問題から、仕方なく焼却処分を行っているところでもあります。

今後の対策としましては、広報での啓発をはじめ、定期的に広域ごみ処理場に搬入された袋についての分別状況を調査した上で、その状況を広報するとともに、適正分別していただけるよう啓発を続けてまいりたいと考えておりますので、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

9番議員と言いましたが、6番議員の間違いです。済みません。

○議長（中西峰雄君） ご了承願います。

15番 石橋君、再質問ありますか。

15番 石橋君。

○15番（石橋英和君） 今回、私以外に2名の先生がこの問題を取り上げられております。やっぱり、市民に十分関心の深い今問題だと認識せざるを得ない問題だと思います。

それと、最終的には燃やすということで、今の焼却場の能力からいえば、大概の物は完全に燃やし切る能力はあるわけでありまして、ただそれを全部燃やしていれば経費が高くつくから燃やさずにリサイクルと。時代もそういう時代だからということで、市民の負担も要求しながら新しい時代のごみ処理をと、当然そういうことではありますが、このスタートの時点で徹底して市民に覚え込んでもかかないと、今の時期をあいまいに過ごしてしまうと、なかなか今後戻りにくいのではないかということで、入れときゃ燃やしてくれるよというところで可燃ごみに入れるくせを、今ちょっとつきつつあるんですね。何かまた増えてきているという。だから、今、一生懸命頑張らなければならない時期だなというそういう認識で私もおります。

新興団地の区長とちょっとお話をさせていただいて、市が行っていただいています説明会のことのご意見、ちょっと聞いていただきたいと思います。

出席して誠実に実行しようとしている人たちのグループ、間違いなくありますということで、一生懸命聞いてわからないところは質問をして、そして日々のごみ出しにそれをもうマスターしていただいている、そういうグループが間違いなくありますということなんです。

次にです。主に高齢者で、説明会も聞きに来てくれてやろうとはしていただいているのはよくわかるんだけど、全部飲み込めてなくて、ご本人たちはちょっと苦しみながらとか、間違いをしながら出していただいている、そういったグループの人たちが次にお

りますということで、積み残しごみ、その人たちからもごみ袋、出ている状況だということでもあります。

それで、3番目のグループであります、何度開催しても出席してくれない人たちのグループが、これも間違いなくありますということで、プリント、印刷物等でご家庭までは届いているには違いないんだけど、開催時には来られていないと。やっぱり間違えているというか、理解せずに出している人たちのグループがありますということなんですよ。

それで、最初に誠実に取り組もうとしている人たちのグループというのは、これはもうほとんどできている人たちでありまして、本当にありがたい限りなんですけども、それと私は行かないよという人たちが多いと。この人たちは多分今要求しているような出し方をしてくれないんじゃないかという、区長も困っているんですよというお話なんですけども、この人たちをターゲットとした説明計画というか、この人たちの存在をどのように取り扱おうと考えておられるのか、その点お願いいたします。

○議長（中西峰雄君）市民部長。

○市民部長（岸田茂利君）先ほどご答弁申し上げましたように、説明会では350回を超えているわけなんですけども、残念なこと出席率は50%を割っておるのが実態でございます。

そして、今ご指摘いただいたように、ある地区でも2回、3回と積極的にリーダーの方が説明会を開催するにあたって、段取りをさせていただくとんですけども、何度となく説明会を持っていたにもかかわらず、出席されない方は、相変わらず出席されないという格好で、区長、自治会長、そしてそれらの役員方も非常に困った状況だということで、我々とも相談をさせていただくとんですけども、残念なことに、今のところ出てこられ

ない方に、無理やり引っ張ってくるという手法というのが悲しいかな、見出せないのが実情でありまして、それをいかにして克服するかというのが課題であります。

そういう格好で、今、地元の役員方とどうしたものかということをお悩んでおるのが実態で、今のところ明らかにこれといった名案がないのが実情でございます。

しかし、そのままほっておくわけにはいきませんので、何度となく精力的に説明会は開催していこうという方向は持っております。そういうことでございます。

○議長（中西峰雄君）15番 石橋君。

○15番（石橋英和君）でも、この人たちに何らかの今の新しい方針を伝えないと、この人たちはあれですね。今の計画にはいつまでたっても協力してくれないですよ。施策がないんだっていうのも、それは何かやっぱり考えないとだめですね。

それで、高齢者の方、今精いっぱいやっているんだけど、今あまり今でもできていない人が、来年再来年とそれはもうできませんよとこれは区長、はっきりおっしゃっているんですよ。新興団地、マンションとかになって、いちいち分別もってお年寄りそんなもの歩いておてくる体力もないんですよと。

さっき、かつらぎ町と大都市圏の違いで言うたのは、大都市、高齢者、核家族というのが結構おるんですよ。かつらぎ町もそれは当然おられるんだろうとは思んですけども、比率からいえば、結構橋本市は高齢者、核家族、住宅形態が橋本市はそういう形態が多いですから。だから、そういう方たちが一生懸命やろうとしてくれているんだけど、今できなかったら年々もっとその人たちにとっては、負担が大きくなるし、だんだんできなくなってくるんじゃないかというあたり、これは否めないことだと思うんですよ。

そして、どうしてもみんな、特に新興団地、子どものころから一緒に育ってきた人たちじゃない土地柄ですから、一生懸命仲よくいいまちづくりをめざしているんですけども、積み残されるごみが必ずあります。それをあそこの人、ただわとなったときに、ご近所の、あそこはいつもごみがあっというふうか、どうしてもそれはそうでしょう、班長が困って次の収集日まで自分とここで預かったり、それで自分とここで班長が当番が分別して再度出し直したりして、それも1人班長がすると、次の班長もせなせなようになるから、でもいつでもその失敗をやっているご家庭に対して、やっぱり暗黙の不満みたいなのが出ちゃって、せっかく仲よくやっというご近所のそんなのに、このごみ問題が変な結果を出しはしないかという心配もあるにはあるんだろうなと思うんです。

それともう一つは、せっかく分別をやっ燃やす量を減らしてということをやろうとしているのに、もうしんどくなって、上手にほうり込んでいたら燃やせるわということで、あきらめのような格好で、だんだん目的から遠ざかっていくという、この心配もしております。

もうちょっと続けますね。それとあれですか。チューブ、マヨネーズとかあるんですかね。ケチャップとか。それは、その他プラで、はさみで切って中を搾り出して、洗浄してきれいになって乾かして、その他プラへ出しなさいという指導だということなんですけども、油とかサラダ油とかもそれはそういう指導があるからやろうとするんですけども、そんなにきれいにならないと言うんですよね。ならないけど、そうしなさいということから出していったら積み残されているんだと。そして、洗ったら、資源からいけば水道をそこで消費するわけですわ。流せば下水が発生するわけ

ですわ。そしたら、下水で流れていくところもあれば、河川へ流れていく、橋本市の今の状況からいけば、これどっちがいいのよという。こんなことやってたら、燃やしたほうが環境のためにもプラスになるんじゃないかという疑問が、だんだんやろうとする気持ちを、やめとこうみたいな気持ちに向いてきているという現実があると聞いておるんです。

それと、破碎プラとその他プラ。これが難しいと、僕もあのページ、なんべんもめくりましたけど、実際家の中の現物を出したときに、すぐ破碎プラ、その他プラと自分で即座に言えるかといったら、これは難しいですね。今の家庭には種々雑多ないろんなものがありますわ。これはいつかごみに出すんですけども。これをすぐ言える人はそんなにいないんじゃないかと、その市の担当職員が、いっぺんあなた言ってみてくださいよと言うたら、絶対間違いは一つや二つするだろうというほど、ここには難しさがあります。これも、でも入れ間違えると積み残されるという。

ここまでで、一旦ちょっととめまして、今るる申し上げました、部長、この辺のところちょっと何かご見解をお願いいたしますわ。

○議長（中西峰雄君）市民部長。

○市民部長（岸田茂利君）先ほど、出席率の悪い方には妙案がないということで、私、ちょっと説明不足やったんですけども、それだけでまちの姿勢でなしに、私どもでは、いわゆる橋本の広報紙を通じまして、主に分別状況の悪い破碎選別ごみの状況等々を啓発させていただいております。

ちなみに、当たり前やないかと言われたらそれまでなんですけども、去年の4月から今年のこの12月号まで、延べ21回中、16回ごみに関する啓発を掲載させていただいて、例えばこの10月号なんかでは、先ほどご指摘のございました分別、その他プラの分別の悪い状

況を具体的に写真等で説明を加えて、適正に分別していただきたいという格好で啓発もさせていただいておりますし、先ほど演壇でも申し上げましたように、これらの啓発等につきましては、積極的に取り組んでいきたいと考えております。

それから、その他プラでおっしゃるように頑固な汚れ、水洗いして、排水溝も汚れるじゃないか、油系で汚れるじゃないかと。これは説明会場でも幾多のご質問がございました。それで、私どもで説明会場で、広報誌にも載せておりますけれども、頑固な汚れで落ちにくいものについては、可燃ごみのほうで回していただいて結構ですという説明をさせていただいております。非常に水道代もかかるやないか、洗剤も要るやないかというような強いご指摘でもございましたので、それもそのとおりでございますので、簡単に汚れがとれないものについては、可燃ごみで結構ですと啓発させていただいております。

それから、破碎選別については、非常にわかりにくいということもご指摘のとおりで、この8月に越してから、その他プラと破碎選別についての問い合わせが一番多かったのも事実であります。8月からはほんまに環境美化センター、あるいは私どもの環境事業室の電話が一日中鳴りっぱなし、質問という格好でしたが、おかげさまでこの4カ月たちまして、ひととおり慣れると言ったら語弊がありますが、慣れていただいた。それから、いろいろ説明会等も繰り返させていただいておる中で、割と落ちついてきたんかなと我々分析させていただいてるんですけども、その問い合わせの電話もこのところめっきりなくなっておりますので、そういう格好で随分慣れていただいご協力いただいとるんなどという部分、解釈しとるんですけども、今しばらくこの状況を見きわめていきたいと考えて

おりますので、ご理解いただきたいと思っております。

○議長（中西峰雄君）15番 石橋君。

○15番（石橋英和君）本当にこの問題に限らず、説明の部分に入りますと、広報で、ホームページで、そして職員たちがその都度熱心という、それがいつも出てくるわけでありますね。というか、それ以外は出てこないんですよ。それを一応説明は終わっておりますという時期がその次に来るわけでありまして、それで次の何かにまた変わっていくんですよ。

ちょっと先ほど演壇でも言いましたように、説明というものが、人件費もかかることだし、そんなという、確かにあるんですけども、私の実感といたしましては、もうちょっと本市、説明というものに精力を割いてもいいんじゃないかと。どの問題でも説明がね。私たちはたかがこの空間の中で全部聞いているわけで、一般市民はそんなに聞いていないんですよ。この空間にいてたって、最先端にいるような気がしてても知らないこといっぱいあるわけで、それで全部のホームページ、市のホームページ全部熟読しているかというのと、そうでもない、抜かっている部分も当然あるわけで、私たちですらね。一般市民が、市当局がもう説明終わりました、もう成すべき説明手段は全部やりましたから、もうわかってもらっていると、それは言わざるを得ない部分は確かにあるとは思うんですけども、ちょっと不親切じゃないのかなと。もうちょっと努力をしないと、いい施策を打ち出しているのに、市民が反応がないんだって。それじゃ施策を変えようよと言うまでに、説明をもうちょっとやれば、本当にそれよかったのということだっていっぱいあるんじゃないかという。だから、今そんなこと、すぐにはあれじゃないですけども、私は説明というものを

もう一度うまく上手にやったら、また何か新しい得られるものがあるんじゃないかということをもう一度考えていただいたらいいんじゃないかなという、一つ提案でございます。

それで、それをまた要望で。同僚議員からも情報をいただいております。

さっきも演壇で言うたんですけど、私らも説明せないかんとは思っております。ごみ袋だって、もうこてんぱんにやられました。私らもね。でも、私らそれ通したんだから。それが分別にしても、ごみ袋にしても、私は、教育、福祉、もっと金要ることようけいある、使いたい。ほな議員、増税かい、税金上げるのかいよとか、もうそれやりたいこと、結局は金がないからやめるのかいよと言われたときに、いやいやごみで浮かすんですよと言うたら、ものすごい魅力のある説明のように受け取ってくれるのね。それで、ああそうかいよと。それで、いまだにごみ袋の料金50円にして、それで全部賄うと思うと人も実際おります、これね。そしたら、そんなんわしら年金生活で金ないのに、全額わしらに持たしてと、もっと税金出しとる人だって市税も入れながらごみ行政やれよと言うんだけど、当然やっているのに、あの袋で全部賄うと思うと人もようけいおるということは、いかにその辺の説明が、あれだけ腹立つとる人らがごみ袋の説明、全く受けてないなという。それはやっぱり説明していますと言うたって通らへんでという気がするんですよ。

それで、文句ばかり言うと思ったらあかんで、やっぱりこっちもこうしたらいいんじゃないかという案を出さなあかんと思ひまして、この間から一生懸命考えとったこと、ちょっと聞いてくださいね。

一つには、今、専門家もおられるけど、CD、ビデオで、あんなの安いんですよ、割とね。下手したら、こんな1冊印刷するより安

いかもわからない。なかなか読んでくれない。家にいっぱいあるのね。この際もろうた。この間、私、免許の書き替え行ったけど、またどっさりくれるの。それで読んでいてくださいねと言うんだけど、そんなのまず読まへんね。あんなようけいくれるけど。それで、その都度わからんから、ごみについて質問をあちこち市の関連に入れると。そしたら、返ってくる答えが違ったりすると。職員の判断も違うんでしょう。だから、これというマニュアルをビデオで1本つくって、それであれば大量に安くできて公民館に置いとく。それで、だれかがちょっと見たいなと公民館にスイッチ入れたらすぐそのビデオが見れる。そしたら、班長に頼んで1枚貸してやったら、どうぞとすぐコピーとってね。それで、各家庭で一式おさらいができると。それで、説明会行くときも、基本的にはそのビデオで根本的な部分を見てもらうと。あと質疑応答を市の職員でやれば、ちぐはぐが出ないし、職員の説明技術とかそんなのなしで1本、金かけてつくっておいたら、うまくいくんじゃないかなというのが、私の一つの提案ですね。

(不規則発言する者あり)

○15番(石橋英和君) インターネットでね。動画で流せるんですね。だから、もうちょっとこれ、私とこでいただいている分です。これもよくできているし、私もこれで勉強して、ここから今しゃべつとる中でこの勉強したことが入つとるんです。これはこれでよくできているとは思いますが、こんなのが家庭にはもうほかすほどいっぱいあり過ぎて、ちょっとすぐずっと見ようとしな。だから、ビデオという方法もコスト的にもあれだったら検討されたらいかがかなという一つの提案でございます。

それと、埋立用のごみ、今、袋でやつとるんですけども、これガラスの割れたのとか、

お茶碗の割れたの、これは袋じゃ無理だという奥さんがおられました。これはちょっとかたいケースでやらないと、袋が破れたら手を切ったりするから、鏡の割れたの、お茶碗の割れたの、これは袋というのはちょっと考えてほしいという。

それと、これさっき言ったこととあれなんだけど、エコロジーですよ。地球温暖化、ガスのCO<sub>2</sub>をね。これはみんな言っているんだけど、これだけ言えばこれだけで済ましたらあほらしいと言うんですよね。アメリカ、中国のことを考えたら、日本なんかまだ頑張ろうとしていると。偉そうに言っているアメリカだってあんなものいいかげん、中国なんて日本の30年前ぐらいのやっているのに、私だけがエコ、エコと言われてもしんどいよと。それはもうしゃあないですわな。あほらしいなと言われたら。だから、そこへそれをやって市の我々の税金のそこで節約があって、だからCO<sub>2</sub>だけじゃなくて私らにももっと卑近な部分でメリットがあるんだよという説明までしないと、単に地球温暖化ガスのことだけで話が終わってしまったら、そんなに各家庭の皆さんは魅力ある話としては受けとめてくれないですよという、そういうことです。

あとは、同僚議員からアドバイスをいただいた件で、住民の方でごみを集積する場所で生の袋の前でちょっとあちこち生の説明をして、これがだめなのとかね。そしたら、一番わかりやすいから、その辺も親切、大変だろうけども、もしできるんやったら、お願いでけへんかなと。そういうことですね。

だから、せっかくやらなければならない時代です。そして、やろうとしました、橋本市はね。そして、市長、おっしゃるように、そこで浮かした金が、橋本市の本当に一番貴重ないい金なんだ、いい財源なんだと。これで

福祉をやるんだ、教育をやるんだという。せっかくこのすばらしい理想を何とかかち取るために、粘り強い大変な作業がこれから待っておりますし、これは道半ばじゃない、まだスタートもできていないほど、市民に対する説明は、こんなの私は本当にとってもじゃないけど。

ちょっと私の提案ビデオだとか何だとかいろいろ申しました中で、部長、ちょっとまた中間で一言お願いします。

○議長（中西峰雄君）市民部長。

○市民部長（岸田茂利君）ご提案も含めて3点ほどご指導いただいたと思います。

1点目の説明会の工夫ですね。あり方についてビデオでしたほうが手っ取り早いし、よくわかるんじゃないかと。なるほどそのとおりだと思っております。

私ども、その350回を説明会を持つ前に、いわゆる説明マニュアルをつくって勉強会をして臨んだと申しあげましたけども、実はそのビデオ作成も視野に入れました。しかし、限られた時間内で何区も同日、同じ時間帯に何箇所でも行かないかんということになりますと、ビデオの機械を持って走り回らないかんということもあって、ちょっと物理的にしんどいなということで、断念した経過もございますが、一応その説明会も終わって、今、平準化しておりますし、今、移行後で説明会をもう一度やってほしいという格好で、15回ほど程度に減ってきておりますので、今いただいたご提案も研究していきたいと思っております。

それから、2点目の埋立ごみ等でガラス等の破片で手が切ったり、ビニールが破けて危ないということは、なるほどそのとおりです。説明会場でもそういう話がございます、コンテナ収集にしてくれないかというようなご希望もございましたけども、コンテナにしますと、コンテナの配付、それから回収、それ



の車、人の問題という格好で非常に経費がかかるということの説明をさせていただいて、ご理解くださいと。それで、危険なものについては、新聞紙等にくるんで、袋排出をお願いしたいということで、これはお願い事項ですけれども、そういう説明をさせていただいております。

それから、集積場にごみ出しするところで実際に立って啓発指導したらどうかということでございますが、これは実際に何区かでご要望がございまして、私ども職員が朝から出向きましてそういう格好で実際にもうやっております。

それから、6番議員でもご説明いたしましたが、ある期間中、個別収集の中でそういう実際に問題ある点を指導したり、させていただいた格好で取り組んでおります。

また、そういう格好でご要望があれば、ご要望があればと言ったら語弊ありますけれども、一応何回でも私どもは説明をさせていただいて、わかりにくい点を解消していきたいと思っておりますので、ご希望いただければいつでもそういった格好で説明にさせていただきます。

それから、何度も言って恐縮ですけれども、これはもう広報でまた出とるんかよというぐらい出していきたい。ある区長に言ったら、こんなの出しても見れへん者は見れへんのよと、こういうふうな指摘もされておりますけれども、それにめげずに啓発に力を入れていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

○議長（中西峰雄君）15番 石橋君。

○15番（石橋英和君）そう言われてしもうたら、それで終わらざるを得ないということもありますね。本当にね。それ以上かみついたって、かみつけないね。もう一生懸命やってくれとるのはわかっている。

ただ、最後に本当に道半ばでもまだない、まだスタート、本当に。それで、この件、市民は怒っているし、その怒りはまだまだ収まってないし、本当にこの目的を達成するんだったら、もっともっとやらんと市民から見放される。市が思っているほど、そこまでまだ市民はそこまで行ってくれてないよというあたりを実感いたしましたので、今回質問させていただきました。

どうか今後よろしくお願ひいたします。終わります。

○議長（中西峰雄君）市民部長。

○市民部長（岸田茂利君）済みません。貴重な時間をいただいて。ちょっと一つだけ宣伝させていただきます。

議員各位には非常に市民からの苦情という格好で耳に入っているということで、私どももその苦情も聞いておるのは確かですけれども、1点だけ、市長への手紙で励ましの言葉をいただいておりますので、ご紹介をさせていただきます。済みません。

これは城山台のある女性の方なんですけれども、2月28日、これ土曜日に説明会をさせていただいたんですけれども、その日の午後8時にメールをいただいております。

そのまま原文どおりご紹介させていただきますと、「2月28日、城山台地区に対してのごみ分別に関する説明会に参加させていただきました。市役所から来られた職員の方々、説明はとてもわかりやすく丁寧で私は満足していたのですが、一部の方々の理不尽な質疑にも冷静に答えてくださっていたのには、本当に大変なことだなと思います。今後もこのような説明会があちこちであると思いますが、今日のように頑張ってください。私は、橋本市民として自分にできることしか協力できませんが、これからもごみの分別はしていくつもりです。本日説明に来られていた3名の

方々、本当にご苦労さまでした」という励ましの手紙もいただいております。

私どももこれを糧に頑張っていきたいと思っておりますので、お褒めの言葉の一端をご紹介しますことができました。

○議長(中西峰雄君) これをもって、15番 石橋君の一般質問は終わりました。

この際、2時30分まで休憩いたします。

(午後2時14分 休憩)